

2021 ADAC TOTAL 24h-Rennen



東 徹次郎
TOHJIRO AZUMA

濃霧により、昨年より長い約 14 時間の赤旗中断！！

変わりやすい路面にクラッシュ多発の荒れたレース！！

集中力を切らさず走り切り、クラス 6 位完走！！

- ・開催サーキット：ニュルブルクリンク（25.387km）
- ・レース時間：24 時間
- ・チーム：Novel Racing with Toyo Tire by Ring Racing
- ・マシン：TOYOTA SUPRA GT4
- ・クラス / カーナンバー：SP10 / #72
- ・ドライバー：Tohjiro Azuma Tischner Michael
Toenges Heiko Asahi Turbo



◆予選（6月3&4日）

前日までの晴天が嘘のように、そして走行日に合わせたかのように雨が降ってきた中で始まった最初の予選。

まさにニュルブルクリンクらしい状況であり、遂に今年も荒れそうな24時間が始まったなと思う瞬間でした。

まずはベテランのティッシュナー選手がレインタイヤでスタートします。部分的には濡れているけど全体的にはレインタイヤでは厳しいということで、2番目に乗る自分はタイヤをカットスリックに交換してコースインしました。

モニターでコースの状況は常に確認していましたが、1周が25km以上あるこのコースでは、每周路面状況が違うときもあるので、特に最初の周ということで、慎重にマシンとコースを確認しながら走りました。

そしてやはり泥の出ている個所もあり、いきなり滑ってヒヤリという場面もありました。

しかしながら、路面状況的には良くなっていく方向ではあったので、2周目はペースを少し上げて自分の中ではしっかりと最初の確認を終えてヘイコ選手へ交代出来ました。

コースも長いので少しペースを上げると10秒単位でタイムも上がります。

1周目は11分0秒台、2周目は10分32秒でした。

その後更に状況の良くなったヘイコ選手の10分03.544秒で、総合88位、クラス7位で最初の予選を終えました。



2回目の予選は同じ日の夜にナイトセッションでの予選です。
とは言え日の長いヨーロッパなので、20時半からと言っても走り初めはまだまだ明るいです。

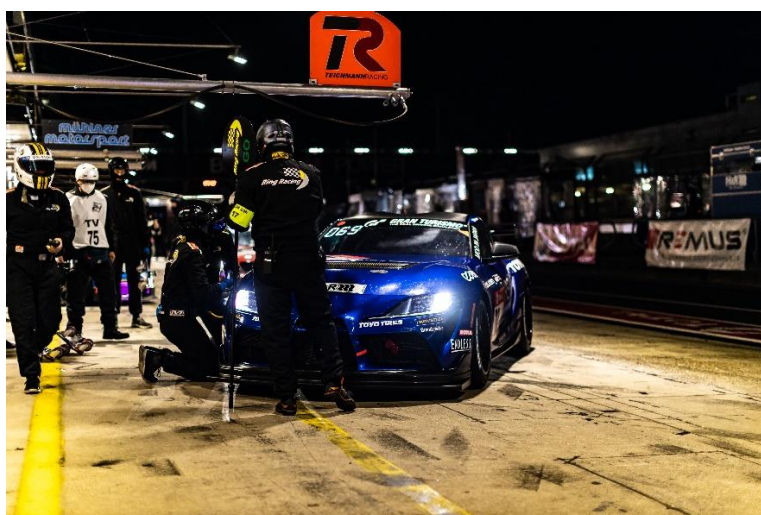


北コースがまだ濡れていたのでレインタイヤでスタートしますが、1周目の確認後にすぐスリックに交換し、このセッションで初めてスリックタイヤで走ることが出来ました。

自分もこのセッションで2周ドライブし、このセッションは4番目に乗ったのでしっかりと暗い状況も確認することが出来ました。

また、1回目よりもペースを上げて走ることも出来たので良かったです。
イエロー区間などで少し引っかかってしまったのでタイムこそ出なかったのですが、手応え良く終われたことが非常に良かったです。

このセッションは **9分 22.104 秒** で総合 **70 位**、クラス **6 位** で終わります。

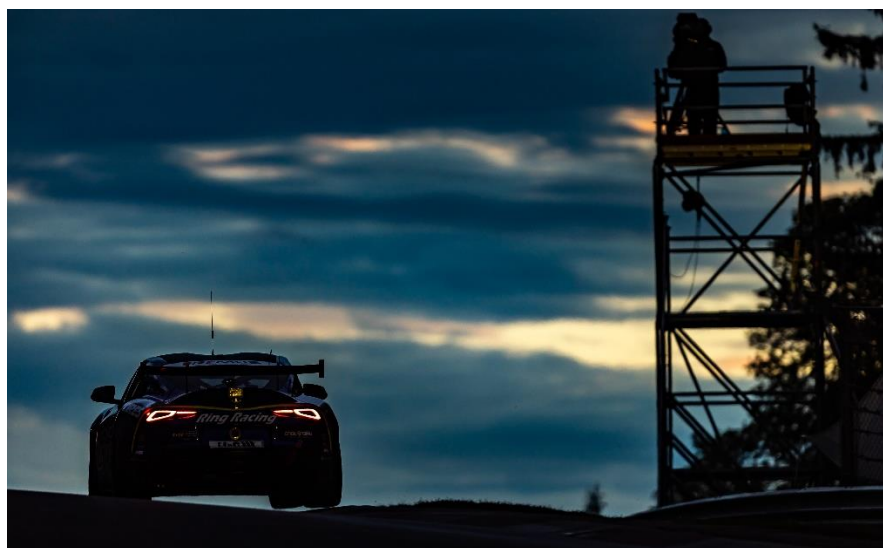


翌日の4日に行われる3回目の予選は、天候も降ったり止んだりで不安定な路面だった為、無理して走らず決勝に向けて温存というかたちで走行はしませんでした。

最後の予選は走りませんでしたが順位の変動も無く、**総合70位、クラス6位**で最終的に予選を終えることになりました。

タイム：9'22.104

予選結果：クラス6位（総合70位）



◆決勝（6月5&6日）

スタートに向けて雨雲がどんどん濃くなってくる不安定な天候の中、スタート時刻を迎えた2021年の24時間レース。

今回、このニュルブルクリンクに来て初めてのスタートドライバーを担当することになりました。

1周目はいつも混戦で荒れますし、しかもスタートと同時に雨も降ってきそうな微妙な天候だったので、久しぶりにかなり緊張し、ナーバスになりました。



フォーメーションラップが始まる直前までタイヤを悩みましたが、1コーナー側からどんどん暗くなってきていましたし、フォーメーションラップだけで20分くらいはかかるので、スタートと同時に降り出す予報も加味してチームとトーヨータイヤさんの協議の結果、レインタイヤでスタートすることに。

フォーメーションラップでコースを確認しましたが、9割ドライで一部だけ少し濡れていました。

路面がドライなのでタイヤをヒートさせ過ぎないように静かに回り、予想していた雨の来ないままスタートします。

1周目はまだ若干濡れている個所もあったので、レインタイヤということで怖くありませんでしたが、ほぼドライなのでタイヤの状況が心配でした。

とは言え、1周目は順調でおそらく3台くらいは抜いたと思いますし、前にもついて行きながらスキがあれば抜きに行ける余裕もありました。



しかしながら 2 周目から早くも乾いた路面でタイヤが苦しくなってきます。特にスープラはリアが厳しく、オーバーステアになってくるのでペースが上がらなくなってきました。

チームに無線でカットスリックへの交換も提案しましたが、ピットのロスを考えてこのままミニマムの周回数を稼いで粘って欲しいとのことで、我慢の展開に。

予想に反して雨は来なくて、周回を増す毎にブレーキングもフラフラになり、高速コーナーもオーバーステアで踏んでいけない状態が悪化していきます。そして小さいコーナーからの脱出もトラクションがかからないのでペースが全く上がりませんでした。

結局抜いた車にはすべて抜かれ、ポジションを落とすことに。

すると 5 周目、一部区間が大雨でクラッシュ多発との無線が。自分が通過するころにはクラッシュ車両の撤去などで 60km/h 規制になっていたの、助かりました。

この時にはレインタイヤもブロックが飛んで無くなっていて、そこに激しい豪雨なので、60km/h でもハイドロプレーニングに陥ってしまっていました。当然事故現場を過ぎてグリーンフラッグが出ても、車が水に乗って飛んでいきそう、60km/h 以上出せない状況でした。

何とかフラフラになりながらその周無事に戻ってきて、ピットへ。

朝日選手と交代し、無事に最初のスティントを終えることが出来ました。

やはりタイヤはもうブロックは飛んで無くなっていました。

自分の次の出番は夜の予定でした。

朝日選手、ティッシュナー選手と繋いで順調に進んでいましたが、ここでドライブシャフトのトラブルが発生し、緊急ピットイン。

メカニックさんたちの迅速な対応で復帰するも 45 分程ロスすることに。



そしてヘイコ選手へ交代し、本格的に暗くなっていく矢先、今度は霧がコース上を覆い始めます。
どんどん濃い場所が広がっていき、22時過ぎ、遂にレースが赤旗に。



しかも回復の見込みが無いとのことで、朝7時まで中断というアナウンスが発表されたのです。
まさかの2年連続でナイトセッションの無い24時間レースとなりました。



そして朝を迎えますが霧は一向に晴れず、1時間毎にスタートディレイをお知らせするアナウンスが。
結局レース再開は昼の12時前で、約14時間にも及ぶ赤旗中断でした。
そして残りは3時間半というスプリントレースへ。



リスタートは赤旗直前にも乗っていたヘイコ選手が担当しました。
まだ霧も残る難しいコンディションの中順調に走行し、燃料の関係で早めにピットインし、自分と交代します。

自分もここで初めてスリックタイヤでロングを走ることが出来ました。
霧は残っていましたがコースはドライです。
荒れた天候の為、コースのあちこちでクラッシュ車両の撤去などが発生していて速度制限が多い印象でした。

フリーでタイムを見ながら走れないことが残念でしたが、その中でもリズムとペースは悪くありませんでした。

タイヤ的には3周目から少しずつオーバーステアが出てきて、それが周回を重ねる毎に症状が増えていくという感じでしたので、タイヤ劣化の状況も把握しやすく予想出来たので、コントロールしやすかったです。

ピットに入る7周目、一部区間が霧雨でコースが濡れていたのですが、路面の色が濃くて濡れているのがわかりづらいところがありました。
ただ、滑りやすいことを知らせるフラッグが出ていたので注意してコーナーへ進入したのですが、2つ目のコーナーに入ったところでいきなりマシンが滑って、危うくクラッシュという危機一髪な状況もありました。
しかしながらここも無事にクリアし、ティッシュナー選手へと交代します。



残りの数周分の燃料が足らなかったため、最後再び自分が乗り込みます。
今年もチェッカーを担当することになりました。
最後もドライだったので、自分としても最後の数周は余裕もあり本当に楽しく
良いリズムで走ることが出来ました。
今年も時間も短かったのですが、内容は本当にサバイバルレースでした。
無事チェッカーを迎え総合 64 位、クラス 6 位で 2021 年の 24 時間を終えました。

決勝結果：クラス 6 位（総合 64 位）

49Laps



◆反省

今年は昨年と同じスーブラで、今回の 24 時間の前にも **SUPER** 耐久のテストで少しではありますが同じスーブラ GT4 を乗っていたので、マシンへの感覚的部分は残っていて走り初めも少し余裕を持って入ることが出来ました。今回、シミュレーターもかなりやっけていき、走行のリズムなどは非常に活きたと思います。

ただ、やはり普通のサーキットと違い、リスクな恐怖はかなりあるので、路面のギャップ、不安定で急な路面変化のリスクなど、どうしても慎重にならざる得ない部分は多いなと改めて感じました。

だからこそ、24 時間に参戦を開始して全てチェッカーを受けることが出来ているのだと思います。

耐久なのでもちろんチーム全員の力ですが、VLN のレース合わせて全レースチェッカーを受けているので、改めてそれは自分の自信にもなりました。

今回初のスタートも担当しましたが、毎回見ても混戦ですし 1 周目で当たっているシーンも何度も見ていたので、絶対に当たるのは避けなければいけないプレッシャーでかなり緊張しましたが、乗ってスタートしてしまえば冷静になっていて、しっかりポジションを上げられたことも自分にとって自信にもなりました。

ここでのスタートドライバーは本当に大きな経験になりました。

チェッカーも 2 年連続で担当させて頂き、ドライ路面になってからは自分なりにいろいろ試しながら楽しんで良いリズムで走ることが出来ました。

赤旗中断もあり、時間が短かったので 15 周しかドライブしていませんが、チーム内では乗った方なので、やはり任せてもらえることは嬉しく思います。

今回、我々はトップ 3 台と比べやはり一発のタイムもアベレージラップもまだまだ負けていました。

来年に向け、開発タイヤだからこそまずはタイヤの開発をより良いものにしていくことが一番のアドバンテージになると思うので、チームとトーヨータイヤさんに頑張ってもらいたいと思います。

また、自分としても更にレベルアップ出来るように今回の経験を活かし、日本ではシミュレーター含めてまたいろいろ取り組んでいきたいと思っています。



◆最後に

今年もコロナ禍で海外への渡航も厳しい中、参戦出来たことを非常に嬉しく思います。

今回は出国から入国まで本当に大変でしたが、いろいろ手続きの面でもサポートしてくださったチームには非常に感謝しております。

また、この状況下でサポートしてくださったスポンサーの皆様にも大変感謝しております。

改めて、本当に有難うございました。

レースは、結果としては満足の結果とは言えませんが、荒れたサバイバルレースをまずはしっかり完走出来て良かったです。

この反省点を必ず次に繋げていきます。

来年は自分としても 24 時間に参戦し始めて 5 回目、ニュルブルクリンク 24 時間レースとしては 50 周年の記念大会でもあるので、来年も絶対に挑戦したいと思います。

海外渡航の制限次第では、年内もシリーズ戦にスポット参戦していこうと考えております。

それについてはチームとも協議し、渡航制限の状況を見極めながら進めて参りたいと思います。

これからも日々目標を持ち、この状況に負けず前向きに全力で頑張っていきますので、どうぞ今後とも御支援御声援の程、宜しくお願い致します。

2021 年 6 月 15 日

東 徹次郎

